

3 交通安全における実践事例

交通安全①

「ヘルメット着用」を普及させることについて考える事例

高等学校 第1学年（現代の国語及び特別活動）

単元（題材）について

1 単元名

「ヘルメット着用」を普及させることについて考える

2 「必ず指導する基本的事項」との関連

区分	II - 2 自転車の安全な利用と点検・整備
目標	自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通法規を守って安全な乗車ができるようにする。
内容	自転車乗車時のヘルメットの必要性について知ること。

3 教材化の視点（身に付けさせたい資質・能力）

自転車乗車用ヘルメットの着用は努力義務であるが、街中でヘルメット着用者を見ることは、ほとんどない。しかし、そのような状況だからこそ、本校の生徒が、自らの命、大切な人の命を守る行動がとれるようにしたい。

そこで、生徒の自転車乗車用ヘルメット着用率を向上させるために、ヘルメットを着用する意義、行政がヘルメットの着用について努力義務を課す意味を知り、生徒が自分の身を守るためにヘルメットを着用したいと考えるような働き掛けを行えるよう学習を工夫した。

指導計画（3時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1 (特別活動)	○ヘルメット着用に関する実態や、「東京都自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」を知る。	◎ヘルメット着用に関する実態を知り、着用率が低い要因を考えさせる。 ◎どのようなルールでヘルメット着用を求められているかを確認させる。
2 (現代の国語)	○校内や地域で、ヘルメット着用を普及させるアクションを考える。	◎ヘルメット着用を普及させていく方法を考えさせる。
3 (現代の国語)	○考えたアクションをグループごとに発表し、相互評価する。	◎グループごとに考えた有効なアクションを共有する。

指導の工夫



- ・WEB会議システムや動画等を使い、視覚的に分かりやすくする。
- ・教科と関連付けた指導として「現代の国語」において、「ヘルメット着用を浸透させる」ことを題材として取り上げた。

指導事例（第3時／3時間）

1 ねらい

学校・地域のリーダーとしてヘルメットを普及させるアクションを提案する。

2 指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価
導入	○ヘルメット着用に対するアンケートを振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 学校・地域にヘルメット着用を浸透させるアクションを提案する。 </div>	◎前時まで学習したことを振り返り、学校・地域のリーダーとしてヘルメットを普及させる意識をもたせる。
展開	○グループごとに考えた、校内や地域でヘルメット着用を普及させるアクションを発表する。  ○発表に対して、質疑・応答する。 ○相互評価をする。 	◎準備段階からグループ内のメンバー全員に当事者意識をもたせる。 ◎質問する班を、事前に指定する。 ◎発表で工夫している点に着目させる。 ■提案は具体的で論理的なものか。分かりやすく伝えるために工夫しているか。
まとめ	○評価内容を共有する。 ○本時の学習内容を振り返る。	

生徒の学習状況

○発表の質疑に対して、ホワイトボードを使用し、ヘルメットの普及について有効な方法があるかどうか、話し合う姿が見られた。

生徒の変容

○動画等の視覚的教材を使いながら授業を進めることで、ヘルメット着用の意義を理解していた。地域に向けてどのような行動を起こすことができるか、授業で出た意見を生活指導部の教員と共有するなど、当事者意識の高まりが見られた。